

受け継がれし記憶

― 集落活性化のための文化体験施設 ―

Keywords

限界集落 神楽 かてーり(結い)
グリーンツーリズム 樹状トラス 懸け造り

K10102

柳田 椋太



1. はじめに

—7878—2007年に国土交通省がまとめた日本全国の限界集落の数だ。「限界集落」とは人口の2人に1人が65歳以上の部落のことである。このうち423部落は向こう10年以内に消滅してしまうという。そう、今この瞬間にも集落がすがたを消しているかもしれないのだ。

2. 研究背景

フィールドワークで宮崎県の山間部に位置する椎葉村を訪れた。人口の約40%が65歳以上であり、徐々に限界集落に近づいている地域である。そこは、日本で唯一の循環型焼畑農法、伝統的建造物群保存地区に選定された椎葉型と呼ばれる並列型住居、無形民俗文化財となった椎葉神楽などを今に受け継ぐ。そして何より心とます山村風景があり「かてーり(結い)^{註1}」の精神を持った柔和で優しい人々がいる。いにしえより受け継がれ人々の記憶にすりこまれてきたこれらの伝統は、途絶えさせるべきではない。

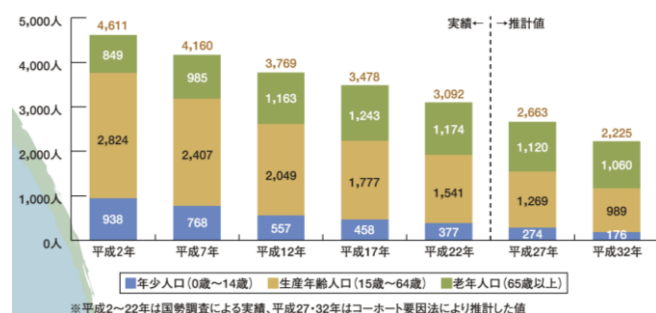


図1 椎葉村人口推計

3. 研究目的

少子高齢化による集落人口の縮小にともない、共同体としての機能を維持することが限界に近づいている椎葉村を建築的手法を用いて活性化させる。これからも村独特の伝統や行事、生活様式が受け継がれていく方法を本研究では提案する。

4. フィールドワーク

4.1 調査地

宮崎県東臼杵郡椎葉村KZ集落

4.2 調査日

2013年7月30日～2013年8月9日

4.3 調査内容

- ・集落の住宅の実測および図面作成
- ・住まい手へのインタビュー

4.4 調査報告

1. 作成図面

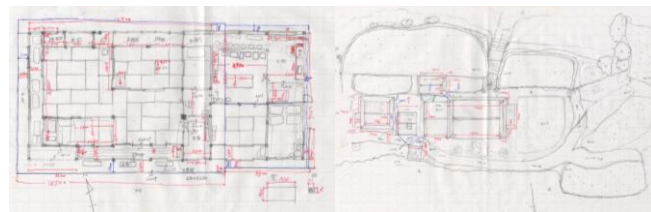


図2 実測図

図3 屋敷図

2. 実測結果

集落の11軒すべてで実測調査をした(2軒は外観のみ)。このうち2軒については建て替えられていたが、9軒については何らかの増改築はされていたものの、伝統的な並列型住居の形態を保っていた。

コザ (仏間)	デイ (客間)	ウチネ (居間)	ドジ (土間)
縁側			

図4 伝統的な並列型住居の形態

3. インタビュー内容

- 住宅について(建設時期, 建設者, 建材, 地域の工夫 etc)
- 生活について(過ごしやすい季節, 移動手段, 買い物 etc)
- 生業について(農作物の種類, 収穫量, 収入 etc)
- 信仰について(信仰宗教, 行事, 神楽, 冠婚葬祭 etc)
- 集落のこれからについて(移住者の受け入れ, 古いモノ-伝統や行事-を残すべきか etc)

4. インタビュー結果

集落の11軒中10軒でインタビュー調査をした。

- 昔から建てられている9軒については、100年以上前に建てられたものがほとんどであった。約40年前までは茅葺きであり、村人どうしで葺き替えをしていた。建材については近隣の山で採れた木材が使われていた。どの住居にも縁側があり、近所の人々と語らう場になっていた。

囲炉裏が残されている家は数軒あったが、現在も使っている家はなかった。

b) 夏は夜間涼しく過ごしやすいが、冬はとても寒いという意見が多かった。移動手段はほとんどが車で、運転できない人は村のコミュニティバスを利用していた。

c) すべての家で米や野菜を作っていた。しかし、収穫量は少なく、ほとんど自給用だった。しいたけを出荷している家が何軒あったが、現在は価格が下落しており収入には結びついていない。

d) ほとんどの家が浄土真宗を信仰しており、仏壇があった。神楽に現在も関わっている人は数人しかいなかったが、昔はほとんどの人が関わっていたようだ。しかし現在は後継者不足に悩まされている。

e) 移住者を受け入れることに関しては皆前向きであったが、来たとしても仕事がなく難しいのではないかという意見も多かった。伝統的なことに関しては残していくべきだという意見がほとんどであったが、若い人が増えないことには致し方ないという意見もあった。

5. 考察

ほとんどの家が高齢者の一人住まいないし老夫婦の二人暮らしであったが、同じ部落や近隣の部落の人々のつながりは強いように感じた。一方、離れた部落に住む人どうしのつながりはあまりないようだった。

5. プログラム

地域活性化のためによく用いられる手法として、企業誘致や観光資源の創出などが挙げられる。しかし何よりもまず大切なことは地域の人々の心が一体になることではないだろうか。椎葉村は東京都の4分の1という広大な面積の中に60以上の部落が点在している。各部落ごとにグリーンツーリズムを行っており、集落営農組織がつくられているところもある。神楽もまた各部落ごとに行われ、それぞれ異なる形式を持つ。高い山と深い森におおわれているため同じ村内でありながら各部落ごとの地域活動が行われてきた。そこで、離れた部落間のつながりを深めることが活性化のための第一歩になるのではないだろうか。

本研究は二つの施設を提案する。観光客のための大規模な神楽殿と宿泊施設である。各部落で行われていた神楽を一か所に集める。椎葉神楽は祝宴性が強く、山岳地帯独特の民俗文化がとりこまれているという特徴がある。つまり椎葉神楽は村民の生活に密接に関わっている。それを一か所に集めることで村民全体の心理的つながりを深められるだろう。椎葉神楽は本来11月末から12月末に行われている。加えて、椎葉神楽祭りという村外の人に神楽を知ってもらうためのイベントも行っている。こちらは、4月に行われる。前者は極めて伝統的な形態を維持しており、あまり村外の人を受け入れない傾向がある。一方後者は神楽の紹介にとどまってはいるが、村外の人

を多く受け入れている。今回提案する神楽殿は伝統的な形式を維持しつつ、村内の人と村外の人が共に利用できるものとする。また宿泊施設は、グリーンツーリズムを多くの観光客が行えるように大規模なものとし、農業体験が楽しめる田畑や郷土料理作りが楽しめる施設も同時に計画する。

これら二つの施設の運営は村民が行う。広範な地域に広がる椎葉村に一体感を持たせることができ、それと同時に後継者不足に悩まされている神楽や農業を多くの人に知ってもらうことができる。それがやがて集落の活性化につながっていくだろう。

6. 敷地

椎葉村KW集落、KZ集落、KR集落に囲まれた傾斜地

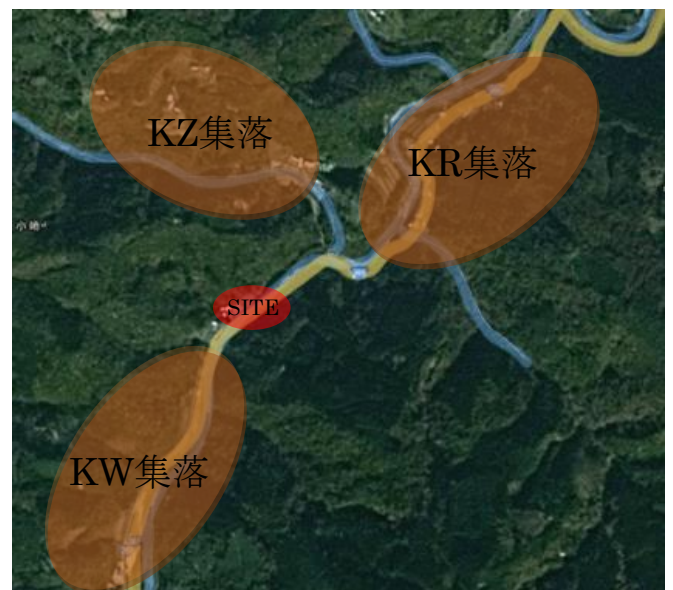


図5 敷地

この付近の部落では合同で毎年神楽を行っている。また、集落営農で一丸となりグリーンツーリズムを通じて積極的に都市との交流を推進している。宿泊施設として、3軒の農家民宿もある。このように、すでに地域活性化のために取り組んでいる地域である。椎葉村の中心街から車で約20分程度であり、都市と田舎の交差点と呼ばれている。計画敷地は図5のような川と道路に挟まれた傾斜地とする。

7. 設計手法

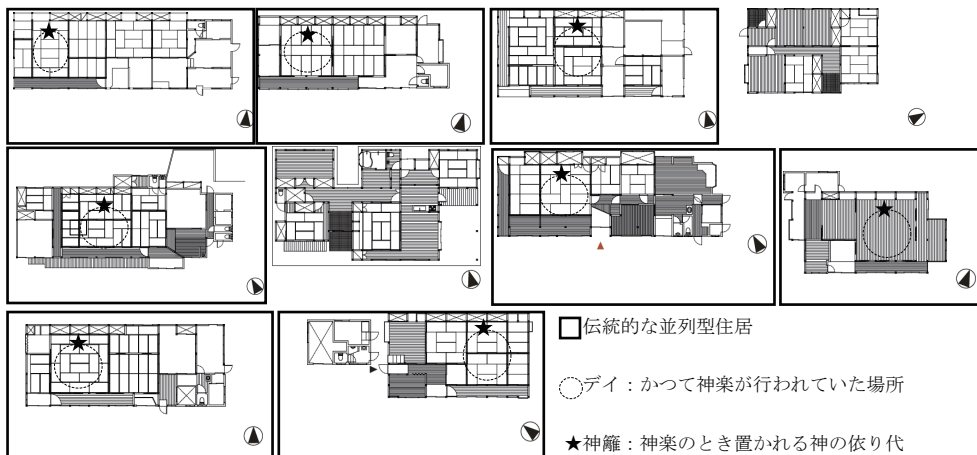
3, 4ページ参照

参考文献・註釈

- 1) 曾根英二 限界集落 吾の村なれば 日本経済新聞出版社
 - 2) 椎葉村HP <http://www.vill.shiiba.miyazaki.jp/>
 - 3) 宮崎県椎葉村の並列型民家と椎葉神楽―椎葉村追手納の民家神楽を中心に― 主査：川本重雄 委員：崎田一郎
 - 4) 渡辺伸夫 椎葉神楽発掘 椎葉村教育委員会
- 注1) 集落の人々が集まり、共同で農業や普請を行うこと

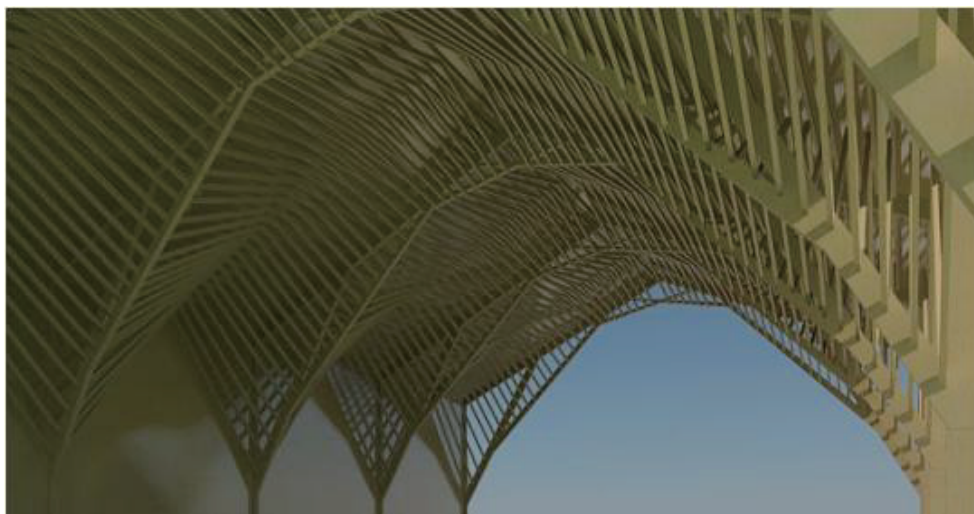
神楽殿

●KZ 集落で実測した平面図



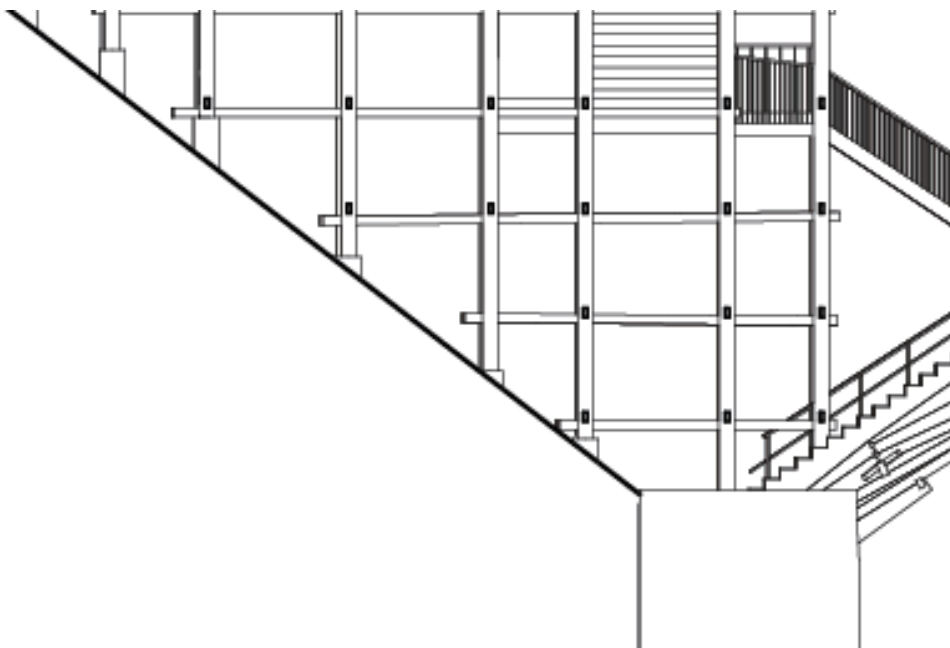
これにならって神聖な方角である北側に神籬が向くように神楽殿を配置する

●樹状トラス



周りの森林との調和と谷から吹き付ける強風に耐えられるよう樹状トラス構造を採用する

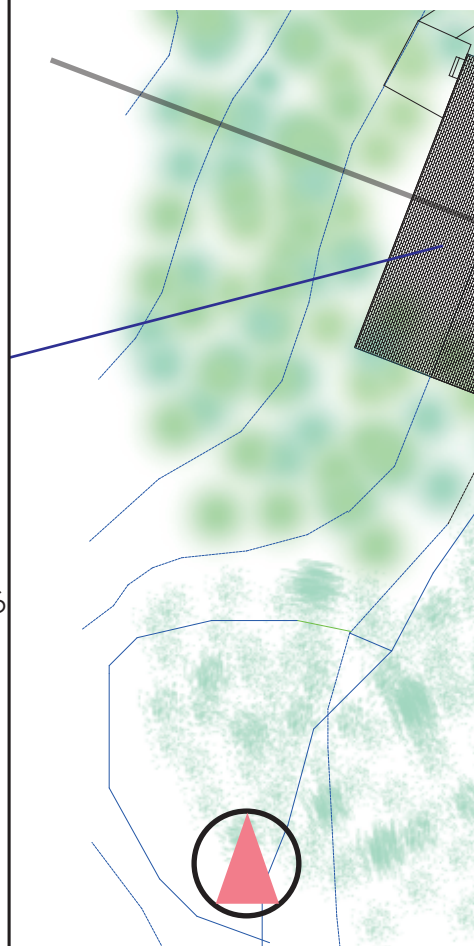
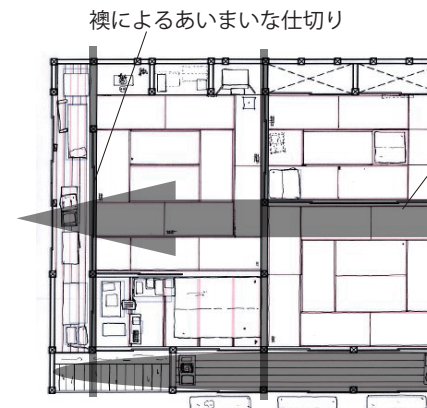
●懸け造り



御神体である山を傷つけないように懸け造りを用いる

宿泊施設

●一般的な並列型住居



アーチ橋

